

はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '86. 8月号

☆行事案内☆

継続行事 7/15火～8/30土 林の生きものたち 7/15火～9/21日 鳥海青児素描作品展 7/19土～8/30土 プラネタリウム 夏の夜の惑星ばなし		10 日 地層観察会(秦野) 12火/13水/15金 天体観察会(七国荘と博物館で) 自然観察入門講座(貝化石を調べよう)
7月 19 土 古文書講読会 20 日 天体観察会(博物館) 24 木 星を見る会(金・火・土星を見よう) 25 金 自由研究相談会 26 土 土曜観察会(水辺の自然観察) " " 石仏を調べる会 30～8/1 サマーセミナー(七国荘)		15 金 星を見る会(月と惑星を見よう) 16 土 古文書講読会 17 日 講演会(虫こぶをつくる虫たち) 22 金 自由研究相談会 23 土 石仏を調べる会 26 火 星を見る会(夏の星座と惑星を見よう)
8月 2 土 古文書講読会 9 土 石仏を調べる会		9月 6 土 古文書講読会 6～10/26 プラネタリウム天の川のうた 13 土 土曜観察会 21 日 自然観察会(中井町藤沢川) 27 土 土曜観察会

●星を見る会

博物館の望遠鏡で、夜空の天体を眺めます。

「月と惑星を見よう」

8月15日(金) 18時～20時

「夏の星座と惑星を見よう」

8月26日(火) 18時～20時

参加自由。博物館の屋上で行います。当日科学教室(1階玄関脇)にお集まりください。

●プラネタリウム

「夏の夜の惑星ばなし」

「夏の夜の惑星ばなし」

期間：8月30日(土)まで

投影のはじまる時間

水・木曜日は14時から/土曜日は14時と15時30分の2回/日曜日は11時と14時からの2回です。

投影時間は45分。観覧券は朝9時から発売します。

●自然観察会「亜炭層と化石」

日時：9/21(日)9～16時(雨天中止)

9月10日までに往復はがきで博物館に申し込んでください。多数なら抽せんで30人まで。昔の湖に堆積した植物の葉や実の化石を観察します。



・サマーキャンプにいったお友達は次号で紹介します。

・1F 民家の土間で
 学校で勉強したものが、ここに来ると見れるからうれしい(かよこさん)
 電気がないから夜なんか怖かったらな(圭祐君)
 今、洋服はお店で買えるけど、昔の人は全部つくってたのね、大変だったでしょうね
 (くみ子ちゃん)



・星のひろばで アストロクイズに挑戦中の3人組
 増田・加藤・山口君たち
 そろって花水小6年生、戦果はいかがとときくと
 "マアマア ですね/"とのこと。午後のアリンコ観察会にも仲良く参加していた。

・2Fで
 釣りが大好きな大野友親君は魚の前で。こんなにでっかいの釣ったことないんだと歎息。



佐藤宣和君は大工道具の前で
 今の工作用具と全然ちがうでしょ。あのこみてよ、スゲーヨ



小島昭君。昔の人の生活がわかるような気がして、僕は土器をみるのが好きだ。火をおこすのだから大変だし、ずい分不便だったと思うよ。今はこれだねとVサインにきめてくれた。
 中原小5年生のお友達



・特別展会場で
 なでしこ小+浜岳中校生の5人連れ
 ありの卵って初めて見たと大感激。夏休みは山にかぶと虫をとりに行くというので、コツを教えてもらった。
 「朝早くか夜になってから行くの、ハチミツを木に塗ると寄ってくるよ」
 林君のきょうだい(みつ子・せいいち・こういちさん)とえみ子さん・尊彦君

●寄贈品コーナー

鳥海青児と素描

鳥海青児(ちょうかいせいじ)は、1902年(明治35年)平塚市須賀(当時は中郡須馬村須賀)に生れ、日本の近現代絵画史に大きな足跡を残した著名な画家である。本名は鳥海正夫(とりうみまさお)といい、20歳の時に鳥海青児と名のり、全生涯の作品のサインにはTyokaiと記している。今回の陳列では、所蔵する作品のうち素描を16点、前期後期に分けて紹介する。

鳥海の素描作品には、国内外での取材旅行先でのスケッチ、あるいはそれをもとにしたエスキース、エチュードなど分類することができるが、作者が語っているように、油絵の作品へ展開させてゆく作業はアトリエでほとんどがなされたことから、現地でのスケッチが大変重要な意味をもっていると言える。ここで素描について考えてみよう。

素描とは、芸術家の創作行為の過程で生みだされる黒や茶などの単色の線を主体に表現されたもので、フランス語でいうデッサンにあたる。それぞれの作家が、どの様な目的、意図によって描くかによって様相を異にするのであるが、大体次の通りに分ける。

1 クロッキー(仏)、スケッチ(英)

対象の造形的特徴を適確に写生する。従って旅行や野外での時間に制約された中で、その場で素早く写生するため、直観的な生な感動が表現され

る特徴がある。クロッキーは特に動物等の動きの速いものを対象にする略画とも言える。スケッチは、静物や風景等がある程度時間をかけたり、細密な描写で対象の記録に重点を置く傾向である。

2 エスキース(仏)、エチュード(仏)、下絵 下図

これらに共通する概念は、創作活動の過程で、クロッキーやスケッチ等をもとに、イメージの展開をはかり最終の作品としての形へ抽象化するための作業として生れるデッサンである。エスキースは完成予定の作品の1歩手前の下絵であり、エチュードは習作。とくにエスキースの部分詳細図というもの。日本画における下絵がエスキース、下図がエチュードに相当する。

鳥海青児の素描は、小さなスケッチブックに描かれたクロッキーとしての風景や動物、それと遺跡やピカドール(闘牛の脇役で槍を持ち馬にまたがり登場する人物)に見られるエスキースが盛んに試みられ、それぞれの油彩画作品(タブロー)に連がってゆくプロセスが明らかになり、大変興味深いものがある。ベニス、ピカドール、シベリアの駅等に見られるクロッキーは、特にこの作家のデッサン力の鋭い力を十分に味わうことができよう。

(森田)



ピカドール(クロッキー)



ピカドール(エスキース)

Vol. 11 No. 2 通巻121号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 〇5000
「はくぶつかん」

発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 Tel.33-5111